

疫学情報⑨ 2016年4月13日

<https://kumanichi.com/news/local/main/20160319002.xhtml>

くまにちコム：熊本日日新聞

ウイルス外殻、処理せずに廃棄 熊本大

熊本大大学院生命科学研究部で、遺伝子組み換え実験に使われたウイルスが、法で定められた必要な処理をせずに誤って廃棄されていたことが18日、分かった。同部長の西村泰治教授は「ウイルスは外殻部分で病原性も増殖性もなく安全で、周辺への影響はないと考える」とした上で「再発防止を徹底したい」としている。

西村教授によると、実験は2月26日、熊本市中央区本荘の基礎医学研究棟の実験室で実施された。ウイルスを遠心分離にかけた後の上澄み液を、誤って流し台に少量、流してしまったという。すぐにウイルスを不活性化させる薬剤を掛けるなどの対処をした。

熊本大から連絡を受けた文部科学省は3月8日、専門官ら2人を熊本大に派遣した。

同省ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室は「速やかに調べて報告するよう熊本大に指示している。病原性のものではないとの報告を受けており、緊急に対処する必要はないと考えている」としている。遺伝子を組み換えた生物が自然界に拡散すると悪影響を及ぼす危険性があるため、遺伝子組み換え規制法（カルタヘナ法）は、熱や薬品で死滅させて廃棄するなどの防止措置を講じるよう定めている。

<https://medley.life/news/item/56f0b0128e8baa4b048b472b> MEDLEY 2016年3月22日

N95 マスクで本当に感染を防げるのか？

インフルエンザウイルスは市販のマスクを通過して感染します。「N95」というタイプのマスクは、手術用マスクよりも細かい粒子を遮断できますが、そのことで感染予防はできるのでしょうか。これまでの研究報告の調査が行われました。

◆N95 マスクとは？

病院では診察など多くの場面で手術用マスクが使われています。N95 マスクも場合によって使われます。N95 マスクは非常に細かいフィルターを使っていますが、顔に密着していないと隙間からフィルターされない空気が入ってしまうため、フィットテストなどで密着していることを確認したうえで使われます。正しく装着された場合、空気の流れが制限されるため息苦しくなり、長時間装着するには向いていません。

◆N95 マスクは粒子を防ぎ、病気を防ぐか？

ここで紹介する研究は、N95 マスクと手術用マスクを比べて、急性呼吸器感染症を防ぐ効果を調べるため、これまでに報告された研究結果を集めて統合したものです。

マスクが粒子を通過させるかを調べた研究と、その結果としてマスクをつけた医療従事者に症状などが発生することを防ぐかを調べた研究が集められました。

◆感染症を防ぐ力に差はない

調査の結果、23件の研究データから、N95 マスクは手術用マスクよりも粒子を通過させにくかつ

たという結果が得られましたが、症状などを調べた 6 件の研究では次の結果でした。

臨床研究のメタアナリシスにおいて、N95 レスピレーターと手術用マスクの間で、次のリスクと関連する有意な差は見られなかった。(a) 検査で確かめられた呼吸器感染症 (RCT ではオッズ比 0.89、95%信頼区間 0.64-1.24、コホート研究ではオッズ比 0.43、95%信頼区間 0.03-6.41、症例対照研究ではオッズ比 0.91、95%信頼区間 0.25-3.36) ; (b) インフルエンザ様症状 (RCT ではオッズ比 0.51、95%信頼区間 0.19-1.41)、(c) 報告された不出勤 (RCT でオッズ比 0.92、95%信頼区間 0.57-1.50)。

見つかったデータからは、N95 マスクと手術用マスクで、呼吸器感染症を防ぐ効果に違いが見られませんでした。

N95 マスクを使いさえすれば安心とは言にくいのかもかもしれません。以前に紹介した研究では、インフルエンザウイルスを含んだ空気を眼にだけ触れさせても感染が起こったこと、手術用マスクを使った防護でもある程度の効果が見られたことなどが報告されています。

N95 マスクがどのような場面に適しているかは、ここで対象とされた以外の使い方も含め、ほかの情報とあわせて検討する必要があります。

<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2016/03/60q3t100.htm>

健康食品の利用に関する消費者調査を実施しました！(平成 28 年 3 月 29 日) 東京都福祉保健局 調査結果のポイント

「健康食品」の利用状況について

- ・66.4%が最近一年間に「健康食品」を利用していた。
- ・男女別の利用率では、男性 62.1%、女性 70.5%と女性のほうが高く、年代別では 18～39 歳 69.7%、40～59 歳 67.8%、60～74 歳 58.7%と若年層ほど高くなっていた。
- ・「効果・目的」、「原材料、内容成分」、「価格」などを重視して購入していた。
- ・摂取目的は、「栄養バランス」、「健康増進」、「疲労回復」などであった。

「健康食品」と医薬品との併用、同時に複数の「健康食品」利用について

- ・利用者の 31%が医薬品と併用したことがあると回答していた。
- ・51.1%が「健康食品」の複数利用の経験ありと回答していた。

摂取の目安量について

- ・利用者の 65.8%は摂取の目安量を守って摂取していると回答していたが、16.9%が目安量より多く摂取している、7.3%が目安量を考えずに摂取していると回答していた。

「健康食品」利用による体調不良について

- ・用者の 3.6%が体調不良の経験ありと回答していた。
- ・症状は、主に「下痢、腹痛」、「吐き気、おう吐」、「皮膚のかゆみ、発赤、発疹」などであった。

中学生以下の子供の利用状況について

- ・中学生以下の子供と同居している回答者の 15.1%が、中学生以下の子供の利用があると回答していた。

・摂取目的は「健康増進」、「栄養バランス」、「特定の栄養素摂取」、「疲労回復」などであった。
調査結果を踏まえた今後の取組

東京都は、今後も健康食品の適正利用に向けた対策を推進していきます。

- ・ 関係部署との連携による総合的対策の推進
- ・ 東京都食品安全情報評価委員会での検討
- ・ 健康食品の正しい利用に関する知識の普及

http://www.tokyo-eiken.go.jp/files/top/27_kenshoku_houkokusho.pdf

都民を対象とした「健康食品」の摂取に係る調査結果報告書（全文）

健康影響等についての分析及び評価や効果的な普及啓発に向けた基礎資料とすることを目的に「健康食品」の摂取に係る調査結果の全文。